

(13) 佐幌川

佐幌川からの取水は、養魚のための利用がなされている。

河川空間の利用としては、隣接する「サホロリゾート」により、サホロ湖におけるカヌーや釣り体験等の場として利用されている。また、サホロ湖上流端にはキャンプ場があり、多くの観光客に利用されている。

河川環境として、上流地の山地には森林が広がっており、中下流域では牧場・畑等が広がり、中流域では新得町市街地、下流域では清水町市街地が隣接する。河床勾配は1/200程度であり、河床は砂・礫で構成されている。魚類では、サホロ湖において、ニジマス、アメマス、サクラマス（ヤマメ）やワカサギ、ダム下流の佐幌川では石礫底の瀬などを利用するフクドジョウやハナカジカなどが生息している。植物では、ヤナギやハルニレなどの河畔林が広く形成され、ミズナラ、エゾイタヤ、シナノキなどもみられる。また、カラマツ、トドマツ等の植林種、林床にはクマイザサ、フッキソウなどがみられる。鳥類では、コゲラ、エナガ、シジュウカラなどのほか、サホロ湖面上にはオオハクチョウ、マガモがみられる。哺乳類では、エゾシカ、キタキツネの生息が確認され、両生類では、湿地や水たまりでエゾサンショウウオが確認されている。

水質については、佐幌川は公共用水域における「生活環境の保全に関する環境基準」に基づき類型指定がされており、金平川合流点から下流はB類型、上流はA類型である。令和元年度の基準点におけるBOD（生物化学的酸素要求量）の75%値は、佐幌橋（B類型指定）で2.2mg/ℓ、清水橋（A類型指定）で1.5mg/ℓ、人道橋（A類型指定）で0.5mg/ℓ未満で、いずれも環境基準（B類型の基準値3mg/ℓ以下、A類型の基準値2mg/ℓ以下）をそれぞれ満たしている。また、平成29年度に佐幌橋において水質調査が実施された。調査結果によると、佐幌橋（B類型指定）のBOD（生物化学的酸素要求量）の測定値は0.8mg/ℓで、環境基準



▲サホロ湖



▲佐幌ダムより下流（上流部）



▲橋井橋より上流（中流部）



▲清水橋より上流（下流部）

値（B 類型の基準値 3mg/l 以下）を満たしている。

このような現状を踏まえ、地域住民や関係機関との連携を図りながら、ダム周辺の良好な環境状況を保全していく必要がある。

(14) ペンケオタソイ川

ペンケオタソイ川からの取水は、雑用水（人参洗浄用）の利用がなされているが、これまでに渇水被害を生じた事例はない。

ペンケオタソイ川は、現在のところ河川空間の利用はない。

河川環境として、佐幌川合流点より上流へ1.6kmの区間が市街地となっており、中流域の後背地は農地として利用され、上流域には森林が広がっている。河床勾配は1/110～1/130程度であり、河床は砂礫で構成されている。対象河川における動植物として、魚類では、瀬や淵などに生息するサクラマス(ヤマメ)や石礫底の瀬などを利用するハナカジカなどが生息している。植物では、ヤナギ類の河畔林が形成され、林床にはクサヨシなどが生息し、水際はノダイオウなどが生育している。鳥類では、ヤマシギ、オオタカ、クマガラが生息している。哺乳類では、エゾクロテンやヒメトガリネズミが生息している。両生類では、エゾサンショウウオが確認されている。また、優先整備区間においては、魚類では、瀬や淵などに生息するサクラマス(ヤマメ)や石礫底の瀬などを利用するハナカジカなどが生息している。鳥類では、河畔林などの樹林に生息するコアカゲラなどが確認されている。哺乳類では、キタキツネやイイズナが確認されている。

水質については、ペンケオタソイ川は公共用水域における「生活環境の保全に関する環境基準」に基づく類型指定がされていないため、定期的な水質調査はされていないが、令和元年度に上流域において水質調査が実施された。BOD(生物化学的酸素要求量)測定値は、いずれの地点においても0.5mg/ℓ未満で、AA類型(基準値1mg/ℓ以下)程度の水質である。また、令和2年度に佐幌川合流点、池内橋付近、4号橋付近において水質調査が行われており、BOD(生物化学的酸素要求量)測定値は、佐幌川合流点で0.7mg/ℓ、池内橋付近で0.8mg/ℓ、4号橋付近において0.8mg/ℓで、AA類型(基準値1mg/ℓ以下)程度の水質である。

このような現状を踏まえ、地域住民や関係機関との連携を図りながら、河川環境を保全していく必要がある。



▲4号橋付近上空より上流（中流部）



▲佐幌川合流点付近上空より上流（下流部）